

広島県立文書館収蔵文書展

広報資料からみた広島県政の歩み

— 1970~2000 —

平成24年3月26日(月)~6月9日(土)



はじめに

広島県立文書館では、昭和四十年代以降の広島県政に係る広報写真約七万五千点を所蔵しています。これらの写真は、広島県の広報課から移管されたもので、当館では、平成二十二~二十三年度に、広島県緊急雇用対策基金事業として、その整理とデジタル化を行いました。

本展では、その写真の一部を紹介するとともに、広島県などが広報等の目的で刊行した各種の行政資料を併せて展示し、昭和四十五年（一九七〇）から平成十二年（二〇〇〇）に至る県政の歩みを跡付けます。また、当該期における県内の大きな出来事や、県民生活の様子についても紹介します。展示を通して、県政に対する理解と関心を深めていただければ幸いです。

広島県長期総合計画

広島県新長期総合計画

—新しいコミュニティづくりをめざして—

21世紀への道
広島県発展計画

活力ある広島

連帯する広島

発展する広島

広島県

ひろしま
新たな躍進へのプログラム

多彩な豊かさと活力の創造

—日本で一番住みやすい生活圏を目指して—

広島県

もんじょかん
広島県立文書館

一 高度経済成長の終焉しゅうげんと永野知事の退任

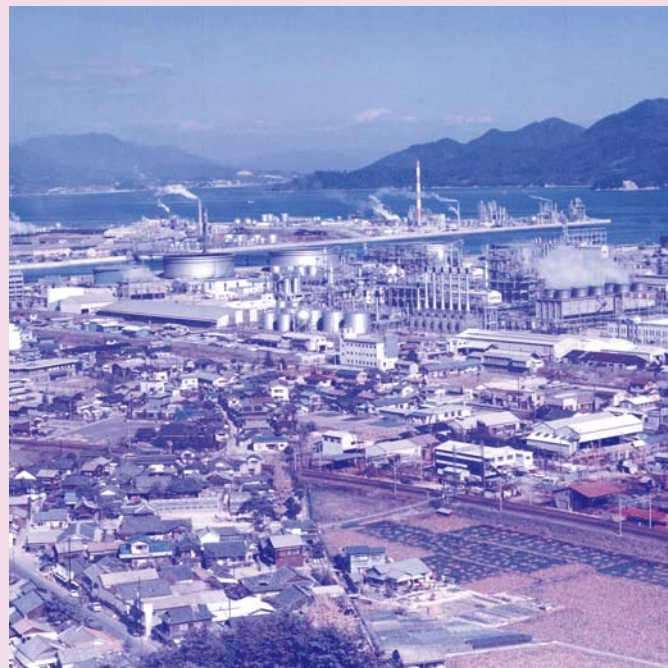
昭和四十五年（一九七〇）五月に施行された広島県知事選挙において、永野厳雄氏いひのひこが三選を果たしました。広島県では、昭和三十年代以降、高度経済成長の波に乗って各地域で開発が進められ、都市化・工業化が急激に進展しました。その一方で、都市部においては公害や住宅環境の悪化、交通難が大きな問題となり、農村部においては過疎問題が深刻化してきました。

このような状況を踏まえて、昭和四十六年二月に策定された「広島県長期総合計画」においては、人間尊重の基本理念に立脚し、「明るい豊かな県民生活の実現」を図ることを基本目標としました。

公害問題については、昭和四十一年に企画室に公害係を設置し、四十四年に広島県公害防止条例を制定しましたが、四十六年には公害対策局を新設するとともに、条例を改正して、一層の規制強化を図りました。

過疎問題については、昭和四十五年に過疎地域対策緊急措置法が制定され、県内の四十七市町村（翌年二町村追加）が過疎地域に指定されました。これを受けて、県は過疎地域振興方針と措置計画を、市町村は振興計画を策定し、過疎債などを活用した交通体系や産業基盤等の整備を図りました。

また、昭和四十四年六月には、広島県同和対策基本方針を策定し、同和対策事業の計画的推進を図りました。その他、永野県政の後期には、消費者保護や自然環境保全などが注目されます。永野知事は、昭和四十八年十一月に退任しましたが、折しも第一次オイルショックのさなかであり、高度経済成長が幕を閉じる時期に当たりました。



大竹市の石油化学コンビナート（昭和44年11月）【S05-2002-6-52】

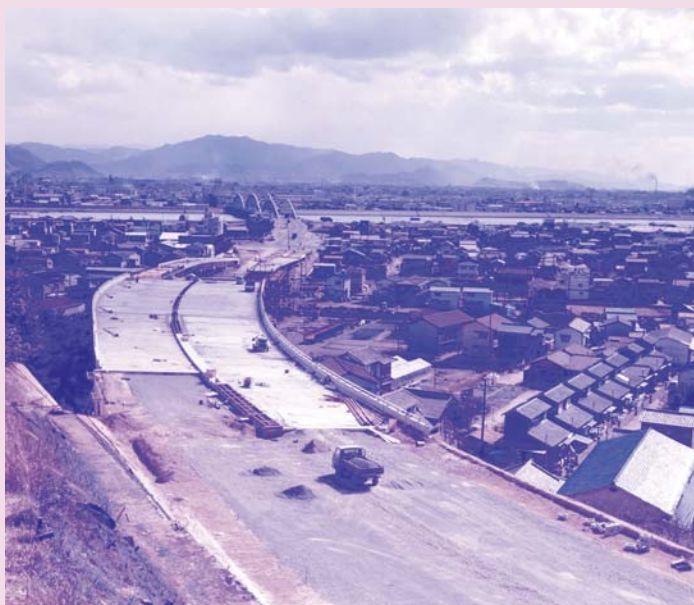


福山市箕島町沖の土地造成工事（昭和46年頃）
【S05-2002-16-6-15】

箕島町地先の海面約380万㎡を埋め立てて工業用地を造成し、鉄鋼・電力等を機軸とした企業の進出を図ろうとするもので、昭和43～47年度に造成本工事を実施した。遠方に日本鋼管福山製鉄所が見える。



呉臨海工業地帯（昭和46年10月）【S05-2002-2301】



西広島バイパス建設工事（昭和46年2月2日）【S05-2008-18-42】

昭和46年8月に広島市～佐伯郡五日市町間が開通。広島市西部の国道2号線の混雑緩和に寄与した。写真は、高須一丁目付近から太田川放水路の旭橋方面を望んだもの。



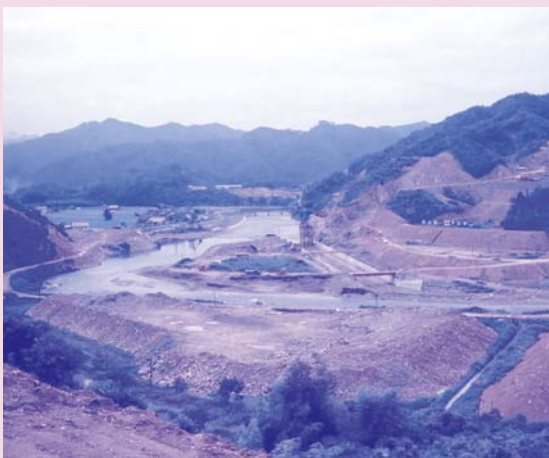
過疎地域振興方針【昭和46年7月】
【S01-2002-681所収】
過疎地域対策緊急措置法第5条に基づくもので、昭和45～49年度の5か年間の振興方針を示す。



公害白書【昭和46年版】【4520-2974】
広島県の公害の状況及び公害の防止施策に関する年次報告書。広島県公害防止条例に基づき、県議会に提出した報告書を刊行したもの。



福山湾の水質汚濁状況を視察する永野知事【右端】(昭和46年8月24日)
【S05-2002-1-53-20】



◀**土師ダム建設工事**
【高田郡八千代町】
(昭和46年8月25日)
【S05-2002-16-8-10】

急増する広島都市圏の水需要を満たすために江の川から分水するとともに、治水、かんがい、発電を行う多目的ダムとして建設された。昭和45年10月に建設開始、49年5月竣工。



安芸灘地域水道用水供給事業
(昭和47年4月22日)【S05-2002-15-7-9】

安芸灘諸島の水不足を解消するため、昭和46年度に着工。写真は、安芸郡下蒲刈町から蒲刈町へ海底パイプを敷設する様子。昭和49年4月に通水を開始した。



◀**昭和三十七年七月豪雨の災害復旧工事**【三次市】
(昭和48年4月11日)
【S05-2002-15-8-4】

昭和47年7月9日から14日にかけて広島県を襲った豪雨は、三次市など県北部を中心として、死者・行方不明者39人、家屋被害19,208棟、被害総額640億円に上る甚大な災害となった。



◀**虹山住宅団地**
(昭和45年12月6日)
【S05-2002-14-17-2】

昭和43年度から3か年計画で建設中の、安佐郡可部町虹山地区の住宅団地。昭和40年代には、一世帯一住宅を目指して、県内各地で住宅団地が造成された。



広島市基町長寿園地区再開発事業
(昭和46年1月31日)【S05-2002-14-9-2】

広島県と広島市が共同で、2,600戸の住宅が密集する広島市基町地区を再開発し、高層住宅を建設した。長寿園地区は県が担当し、第1期工事を昭和44年12月に着工、49年3月に第4期工事が完成した。

二 「地方の時代」とコミュニティの振興 — 宮澤県政 —

昭和四十八年（一九七三）十二月に就任した宮澤弘知事は、直ちに県民生活安定緊急対策本部を設置し、オイルショックによる物資不足や物価高騰に苦しむ県民の生活を安定させる対策に取り組みました。

以後昭和五十六年までの宮澤県政の時代は、高度経済成長から安定成長への過渡期に当たります。当該期にも、高速道路やダム等の社会資本の整備が引き続き進められ、賀茂学園都市や備北新都市圏、広域市町村圏の振興計画が策定されました。また、太田川東部や沼田川などの県営広域水道事業も積極的に推進されました。しかし、従来の開発中心主義は見直され、福祉や環境問題への対応、コミュニティの振興等に重点が置かれました。

昭和五十年代には、「地方の時代」が喧伝されましたが、昭和五十二年に策定された広島県新長期総合計画は、副題を「新しいコミュニティづくりをめざして」とし、「連帯と活力に満ちた地域社会の形成」を県政の基本目標としました。同年には、企画部にコミュニティ振興課を新設し、高度経済成長によって失われた地域社会の連帯性を取り戻し、心の触れ合う近隣社会を作り出すことを目指しました。

オイルショックにより、造船業を始めとする石油依存度の高い産業は著しい不況に陥りましたが、公共事業の別枠発注や、事業転換の推進、緊急融資制度の創設等の対策を講じました。

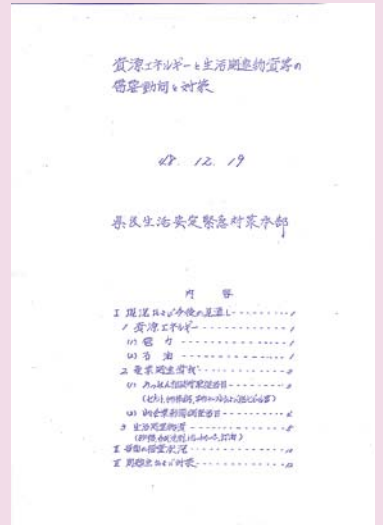
農政の分野では、昭和四十年代後半以来、過剰米対策として減反政策が実施されてきましたが、昭和五十三年度からは水田利用再編対策を実施して、転作を推進しました。

また、農業の担い手対策として、農業者大学校の整備などを行いました。

宮澤県政では、福祉保健施策の拡充が重要課題とされました。昭和五十年年度から大規模社会福祉施設の建設に着手しましたが、オイルショック後の財政難の中でその財源を確保するため、法人県民税の税率引き上げ等により、大規模社会福祉施設等建設基金を設けました。また、自動車税の超過課税も併せて実施し、交通安全施設の整備や、環境センターの建設、低公害車への減税措置の財源としました。



あなたもリーダー コミュニティ活動ハンドブック
=いま、お隣りで、地域で=
(昭和54年4月)【2040-01-1136】
コミュニティ～みんなで住みよい地域をつくろう～
(昭和53年3月)【2040-90-705】
コミュニティとは何か、なぜコミュニティづくりが必要か、コミュニティづくりの実例などを解説した啓発用資料。



資源エネルギーと生活関連物資等の需要動向と対策 (昭和48年12月19日)
県民生活安定緊急対策本部【7570-01-1915】
オイルショックによって、資源エネルギー（電力・石油）、産業関連資材（セメント等）、生活関連物資（砂糖・合成洗剤・トイレットペーパー・灯油）が不足している状況と、当面の対策を示す。



ひろしま県政だより ふれあい 創刊号
(昭和53年7月1日)【2010-06-1】
県政をより身近なものにしようとの目的で、全戸配布の広報紙として105万部を発行。全面横組のカラー印刷で、当時は全国に例を見ないものであった。昭和62年7月1日号（通巻73号）から、「広島県民だより ふれあい」に名称変更。



第7回みんなの消費生活展【福山市の天満屋にて】
(昭和49年10月19日)【S05-2002-4101-16】
消費者の啓発のため、毎年県内各市と共催で消費生活展を開催した。昭和51年には、「広島県民の消費生活の安定と向上を促進する条例」を制定し、消費者保護施策を推進した。

物価監視員 (昭和49年7月3日)【S05-2002-4028-28】
オイルショック対策の一環として、広島県職員112人が物価監視員に任命され、生活関連物資等の価格や需給動向の監視を始めた。



建設中の中国縦貫自動車道帝釈橋 [比婆郡東城町] (昭和53年竣工) 【S05-2002-3092】

橋の長さ283.5mで、固定アーチ橋としては日本最大級。中国縦貫自動車道は、昭和58年3月24日に全線開通した。



山陽新幹線岡山一博多間開業 (昭和50年3月10日) 【S05-2002-2911】
広島駅で、一番列車ひかり158号出発のテープカットを行う。宮澤知事、西田県議会議長ら。



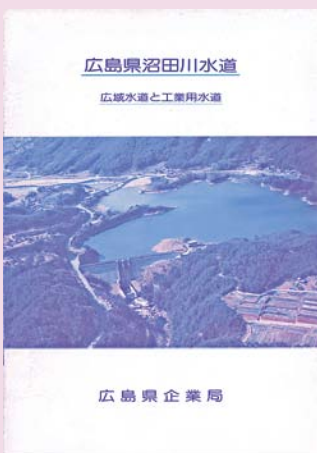
賀茂学園都市 [東広島市] (昭和56年度) 【S05-2002-675】

昭和57年の工学部を初めとして、広島大学の統合移転が進められた。



廿日市ニュータウン [佐伯郡廿日市町] (昭和55年度) 【S05-2002-639】

廿日市木材港埋立の山土を確保するために計画され、昭和46年度造成事業着工。良好な住環境をもつ住宅団地として、昭和58年度概成。



広島県沼田川水道 (昭和56年4月)



【7540-2010-442 (米田静郎氏収集資料)】
沼田川水道用水供給事業 (平成元年4月) 【7040-90-1582】

昭和40年代に完成していた沼田川工業用水道の未利用水源を上水用に転換し、昭和52年4月から全域に給水を開始。昭和57年には、愛媛県上島諸島への分水に関する基本協定を締結し、60年から県境を越えた給水を行っている。



県立ふれあいの里開設 [御調郡御調町] (昭和56年7月1日) 【S05-2002-1704】

医療・保健・福祉を始め、生きがい対策を含む総合機能を持ったモデル的な老人福祉団地として建設され、青年の家も併設された。



広島そごう（広島バスセンター）新築工事
（昭和48年6月1日）【S05-2008-15-96】
昭和49年10月10日オープン。初日には24万人が詰めかけた。



旧広島バスセンターと紙屋町交差点
（昭和45年11月6日）【S05-2002-170-17】



広島東洋カーブ初優勝記念パレード（昭和50年10月20日）【S05-2002-183-111】
平和大通りに30万人もの人々が集まった。



本通商店街（昭和46年6月27日）【S05-2002-12-12-2】



第3回ひろしまフラワーフェスティバル（昭和54年5月）
【S05-2002-183-109】



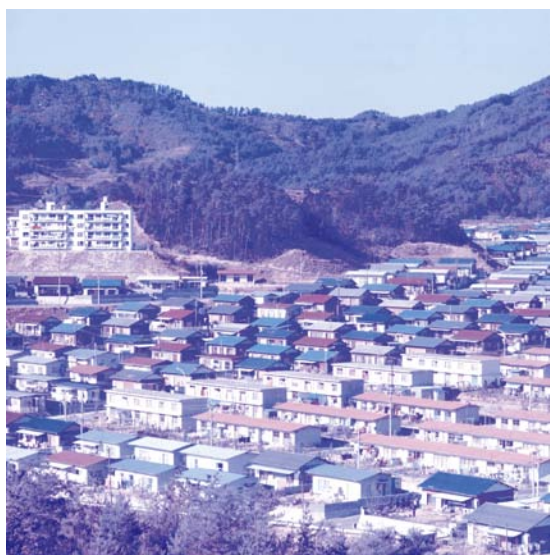
高陽ニュータウン [広島市]（昭和53年頃）【S05-2002-731】



みよしプラザ開店【三次市】（昭和47年3月3日）
【S05-2008-15-2】



福山駅前（昭和47年2月9日）【S05-2002-3902-4】



熊野団地【安芸郡熊野町】（昭和45年12月5日）
【S05-2008-18-99】



ベッチャー祭り【尾道市】（昭和49年11月3日）【S05-2002-4083-6】



県立図書館の文化船ひまわり【瀬戸田港にて】
（昭和45年10月27日）【S05-2002-19-12-4】



早瀬大橋開通式【安芸郡音戸町（倉橋島）－佐伯郡大柿町（能美島）】
（昭和48年10月27日）【S05-2002-4115-32】

昭和37年4月から56年7月まで、島しょ部へ図書が届けた。

三 地域の活性化と豊かな県民生活 の実現に向けて―竹下県政―

宮澤知事の後を受けて、昭和五十六年（一九八一）十一月に就任した竹下虎之助知事は、全国に先駆けて行財政改革を実施し、昭和五十八年度から五か年計画で、部局や課の統廃合、職員定数の一割削減などを進めました。また、昭和六十年には、大規模施設を計画的に整備するための基金を創設しました。

昭和六十一年には、第三次長期総合計画「21世紀への道 広島県発展計画」を策定し、「活力と個性豊かな21世紀広島の創造」を県政の基本目標としました。時代が昭和から平成へと移り変わり、空前のバブル景気に沸いたこの時期には、社会資本の整備や、産業構造の高度化・多角化に向けた取組が積極的に進められました。

社会資本の整備については、平成五年（一九九三）十月に新広島空港が開港し、旧空港はコミューター専用の広島西飛行場に生まれ変わりました。山陽自動車道、中国横断自動車道、本州四国連絡道路等の高速道路や幹線道路の建設が進められ、海田地区や五日市地区の港湾の整備も行われました。産業構造の転換に向けた取組としては、昭和五十七年に新たな工業立地促進制度を設け、電子産業等の先端技術分野を中心とした企業誘致に努めました。また、東広島市などの県中央地域を広島中央テクノポリスと位置付け、学術研究機関や先端技術産業と地域の伝統文化や自然が調和した地域づくりを目指しました。

農林水産行政については、昭和六十年から、農業の活性化を目的とした県民運動「いきいき農業ひろしま」を展開し、「広島ふるさと一品運動」を推進しました。また、



建設中の新広島空港ターミナルビル（平成5年2月28日）【S05-2002-567-1-3】

昭和六十二年から、県民運動「チャレンジ林業ひろしま」を展開して、林業の活性化を図るとともに、「とる漁業」から「つくり育てる漁業」への転換を一層推進し、マリニピア芸南構想を計画しました。当該期には、大型観光キャンペーン「Sun Sun ひろしま」や、「89海と島の博覧会・ひろしま」などが開催され、各地に観光施設や大規模公園が整備されました。文化施設については、県立歴史博物館や県情報プラザなどが新設され、県立美術館の全面改装が始まりました。また、男女共同参画社会の実現に向けた取組が進められ、中国四国省との友好提携を始めとする積極的な国際交流も推進されました。



豊浜大橋【豊田郡豊浜町（豊島―大崎下島）】
（平成4年11月開通）【S05-2008-2-5】
安芸灘諸島連絡架橋の一つで、農道橋として整備された。



山陽自動車道（河内～西条）開通（平成2年11月30日）【S05-2002-23-119】
平成5年10月に、県内区間が全通した。



広島テクノプラザ落成（平成4年4月27日）【S05-2002-23-125】
広島中央テクノポリス地域の研究開発機能の集積を高めるため、東広島市鏡山に広島中央サイエンスパークが造成され、その中核的施設として、広島テクノプラザが建設された。



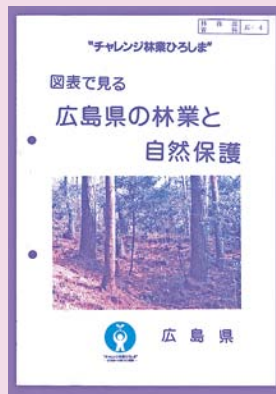
海田コンテナヤード（昭和62年3月）【S05-2002-23-53】
海田湾の埋立は、昭和40年代以来の懸案であったが、昭和60年12月に完成し、流通の拠点として整備された。



いきいき農業 ひろしま
 ~ひろしまの農業・21世紀をめざして~
 (昭和63年4月)【6000-U-161】
 農村の多様な機能を十分に発揮させ、創意工夫をこらした収益性の高い農業と、魅力ある農村を目指した県民運動。



広島ふるさと一品
 (昭和59年10月)【6030-87-233】
 各市町村が自慢できる農林水産物とその加工品をふるさとと産品に選定し、産品の生産や加工施設の整備などに対する県費助成を実施した。



“チャレンジ林業ひろしま”
図表で見る広島県の林業と自然保護 (昭和62年10月)
 【6060-2000-482】
 21世紀における広島県の林業のあり方を展望した上で、その実現を目指したチャレンジ計画を策定し、創意工夫を凝らして取り組もうとする運動。



広島県栽培漁業センター
 =すばらしい未来につなぐ海づくり=
 【6070-2004-1726】
 昭和57年に、放流用稚魚の大量供給施設として、竹原市に整備された。栽培漁業推進の拠点施設。



広島県立大学 [庄原市] (平成元年4月開学)【S05-2002-202-3】
 内陸部唯一の高等教育機関として、「地域に開かれた大学」を設置理念とした。



'89海と島の博覧会・ひろしま (平成元年7月)【S05-2002-23-52】
 平成元年7月8日から10月29日までの114日間開催。総入場者数は約600万人、県内への経済波及効果は1,756億円(推計)に及んだ。写真は、メイン会場(広島市西区扇町)の様子。



◀広島県・四川省友好提携調印式 (昭和59年9月17日)
 【S05-2002-205-8】
 友好提携締結後は、農林業・商工業・医療・環境・学術・スポーツなど、広範囲にわたる人材や技術の交流が進んだ。



◀台風19号の被害 [厳島神社] (平成3年9月)
 【S05-2002-23-38】
 平成3年9月27日に来襲した台風19号は、広島市で最大瞬間風速58.9m/sを記録し、死者6人、家屋全壊・半壊492戸など甚大な被害を出した。厳島神社の能舞台が倒壊するなど、文化財も大きな被害を受け、台風通過後も、塩害による停電が広範囲で発生した。



エソール広島 [広島市]【S05-2002-201-59】
 女性の自立と社会参加を促進するための中核的施設として、平成元年4月1日に開館した。

四 二十一世紀への展望

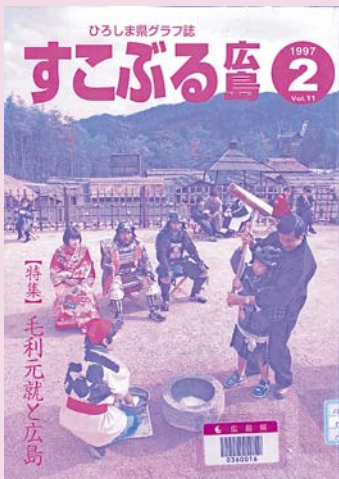
―藤田県政前期―

平成五年（一九九三）十一月、三期十二年務めた竹下知事が退任し、藤田雄山知事が就任しました。藤田県政の初期は、平成六年の第十二回アジア競技大会、同八年の第五十一回国民体育大会（ひろしま国体）などの大規模イベントの開催や、バブル崩壊後に国が相次いで打ち出した経済対策への対応が大きな課題となりました。

平成七年には、第四次長期総合計画「ひろしま・新たな躍進へのプログラム」を策定し、「多彩な豊かさ」と活力の創造「日本で一番住みやすい生活県を目指して」を県政の基本目標としました。

以後の五年間は、その目標を達成するために、保健・医療・福祉サービスの充実、防災体制の強化、国際交流拠点づくり、産業構造の改革、教育改革、中山間地域の活性化などに取り組むとともに、行財政改革にも着手しました。

しかし、経済の長期低迷による産業活動の停滞や地域活力の低下、人口の社会減少の拡大など、構造的な課題が顕在化してきました。そこで、広島県は、平成十二年十一月に「県政中期ビジョン ひろしま夢未来宣言」を策定し、十年後の平成二十二年における本県の目指すべき姿を提示し、その実現に向けた道筋を描きました。このビジョンでは、一人一人が生き生きと活動し、安心して暮らすことのできる「元氣な広島県」を目標にして、二十一世紀の県勢発展に向けた諸課題に取り組んでいくことになりました。



◀すこぶる広島 Vol.11
(平成9年2月号)

【2010-2009-108】

「すこぶる広島」は、平成7年6月に創刊した広島県のグラフ誌。この第11号では、平成9年のNHK大河ドラマ「毛利元就」にちなんだ特集が組まれている。



ひろしま国際プラザ [東広島市] (平成9年4月1日開設)

【S05-2008-10-21】

広島県の広島国際協力センターと、国際協力事業団（JICA）の中国国際センターとの複合施設として開設。県の国際協力・国際貢献事業の中核的施設。



広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式 (平成7年8月6日)

【S05-2002-560-10】

広島は、この年被爆50周年を迎えた。



第12回アジア競技大会 (平成6年10月9日) 【S05-2002-126-14-13】

平成6年10月2日から16日までの15日間開催。42の国・地域から選手・役員6,828人が参加し、入場者数は230万人に上った。写真は、10月9日に開催された男子マラソンの様子。



「おりづる大会ひろしま」まであと100日パレード [本通商店街]
(平成8年7月13日) 【S05-2002-299-8】

第51回国民体育大会（ひろしま国体）に併せて、第32回全国身体障害者スポーツ大会（おりづる大会ひろしま）が、平成8年10月26・27日に開催された。

県政中期ビジョン ひろしま 夢未来宣言 (平成12年11月)

【2030-2000-823】

第4次長期総合計画を補完するビジョンとして策定。広島県の強みを活かし、産業の再生と教育改革を最重点施策として位置付けた。





県立広島病院【広島市】（平成8年度）【S05-2008-9-8】

平成8年7月、増改築工事が完了。救命救急センターや母子総合医療センターなどの施設を完備した基幹病院として、より高度で総合的な医療体制が整備された。



広島県民文化センターふくやまと福山市中心街
（平成3年9月9日）【S05-2002-200-25】

写真中央手前のビルが、広島県民文化センターふくやま（エストパルク）。その左側が建設中の福山市役所。写真中央上側には、建設中の福山そごうが見える。



鞆の浦【福山市】（平成4年12月）【S05-2008-4-2】

昭和58年に、埋立架橋の当初計画を策定。1990年代には、県文化財保護審議会、鞆地区道路港湾計画検討委員会等における審議や、港内で近世の焚場（たてば）遺構が確認されたことをふまえて、埋立予定面積が縮小され、現在の計画に至った。



厳島神社【佐伯郡宮島町】（平成8年度）【S05-2008-9-18】

平成8年12月、原爆ドームとともに、世界文化遺産に登録された。



観音マリーナ【広島市】（平成13年度）【S05-2008-12-49】

広島県マリーナネットワーク整備事業の中核施設として整備を進めている。第1期工事が完成した平成9年4月から供用開始された。



多々羅大橋【豊田郡瀬戸田町（生口島）—愛媛県越智郡上浦町（大三島）】
（平成10年度）【S05-2008-11-6】

平成11年5月1日に新尾道大橋、来島海峡大橋とともに完成し、「瀬戸内しまなみ海道」が開通した。

関係略年表

1970 (昭和45)	5 永野巖雄知事三選 7 過疎地域振興方針策定
1971 (昭和46)	2 広島県長期総合計画策定 4 公害対策局を新設 6 県立消費生活センター設置 7 県民の森オープン 8 国道2号西広島バイパスの広島市～五日市町間開通
1972 (昭和47)	7 豪雨により県北一帯で大被害
1973 (昭和48)	10 第1次オイルショック, 早瀬大橋開通 12 宮澤弘知事就任, 県民生活安定緊急対策本部設置
1974 (昭和49)	3 備北新都市圏整備基本計画策定 4 安芸灘地域へ給水開始 5 賀茂学園都市建設基本構想を公表, 土師ダム竣工, 広島呉道路供用開始
1975 (昭和50)	3 山陽新幹線岡山～博多間開業 10 広島東洋カープセリエグ初優勝
1976 (昭和51)	12 芦田川河口堰竣工
1977 (昭和52)	3 広島県新長期総合計画策定 5 第1回ひろしまフラワーフェスティバル開催
1978 (昭和53)	6 江田島町林野火災 10 広島市基町地区の再開発事業完成
1979 (昭和54)	1 第2次オイルショック
1980 (昭和55)	4 広島市, 政令指定都市に移行
1981 (昭和56)	5 魚切ダム竣工 7 御調郡御調町に県立ふれあいの里を開設 11 竹下虎之助知事就任
1984 (昭和57)	4 広島大学の統合移転が始まる(工学部が東広島市に移転) 9 沼田川水道から愛媛県への分水に関する基本協定締結
1983 (昭和58)	3 中国縦貫自動車道全線開通
1984 (昭和59)	9 中国四川省との友好提携締結
1986 (昭和61)	3 県の第3次長期総合計画策定
1988 (昭和63)	3 新幹線新尾道・東広島駅開業 7 県北西部で集中豪雨, 死者14人
1989 (平成元)	4 広島県立大学開学, エソール広島開館 7 海と島の博覧会・ひろしま開幕
1991 (平成3)	9 台風19号により甚大な被害 12 中国横断自動車道広島浜田線全線開通
1992 (平成4)	4 広島テクノプラザ落成
1993 (平成5)	10 山陽自動車道県内全通, 新広島空港開港 11 藤田雄山知事就任
1994 (平成6)	10 第12回アジア競技大会開催
1995 (平成7)	3 県の第4次長期総合計画策定 8 戦後50周年広島県戦没者追悼式挙行
1996 (平成8)	9～10 第51回国民体育大会(ひろしま国体), 第32回全国身体障害者スポーツ大会(おりづる大会ひろしま)開催 12 厳島神社と原爆ドームが世界文化遺産に登録
1997 (平成9)	2 中山間地域活性化対策基本方針策定 4 ひろしま国際プラザ開設 5 アメリカハワイ州と友好提携締結 7 八田原ダム竣工
1998 (平成10)	5 文部省から県教育委員会へ是正指導 10 安芸灘オレンジライン開通
1999 (平成11)	5 瀬戸内しまなみ海道開通 6 県南西部で土石流, 死者行方不明者32人
2000 (平成12)	11 県政中期ビジョン・ひろしま夢未来宣言策定, 広島県市町村合併推進要綱策定, 第15回国民文化祭・ひろしま2000開催



県立保健福祉短期大学【三原市】【S05-2008-4-26】

平成7年4月開学。全国初の言語聴覚療法学科を設置。平成12年より県立保健福祉大学, 17年より県立広島大学の一学部となる。



国営備北丘陵公園【庄原市】(平成10年度)【S05-2008-11-33】

昭和53年以来誘致を進め, 中国地方初の国営公園として, 平成7年4月に部分開園した。

表紙

広島県庁(昭和61年4月)【S05-2002-3402】
 広島県長期総合計画(昭和46年2月)【2030-2665】
 広島県新長期総合計画(昭和52年3月)【2030-1021】
 21世紀への道 広島県発展計画(昭和61年3月)【2030-90-1848】
 ひろしま・新たな躍進へのプログラム(平成7年3月)【2030-2000-825】
 ※本図録において, () 内の年月日は, 写真の撮影年月日又は行政資料の発行年月日を, 【 】 内の英数字は請求記号を示しています。

主要参考文献

『戦後五十年広島県政のあゆみ』広島県(平成8年3月)
 『県政概要(昭和37年度～47年度)』, 『県政概要(昭和48年度～56年度)』, 『県政概要(昭和57年度～平成5年度)』[いずれも広島県発行]
 広島大学文書館編『地方自治とは何か―竹下虎之助回顧録―』株式会社現代史料出版(平成18年7月)
 御厨 貴・飯尾 潤編集『地方自治に生きる―宮澤弘回顧録―』第一法規株式会社(平成19年10月)

広島県立文書館収蔵文書展

広報資料からみた広島県政の歩み 1970—2000

発行 平成24年(2012)3月26日
 編集・発行 広島県立文書館(担当 荒木 清二)
 〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47
 TEL 082-245-8444 FAX 082-245-4541
 E-mail: monjokan@pref.hiroshima.lg.jp
 印刷 有限会社 創元社